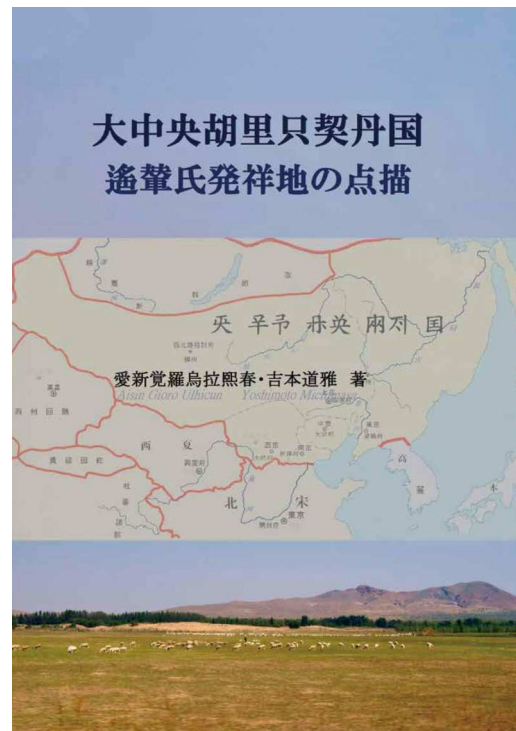


大中央胡里只契丹国—遙輦氏発祥地の点描—

愛新覚羅烏拉熙春・吉本道雅 著



松香堂 2015年

本書の調査研究の対象とする契丹発祥地の所在は、著者が2012年に中国内モンゴル赤峰市東南部山地から出土した契丹文「耶律玦墓誌」を解読した結果、はじめて確認された。解読の結果、以下の史実が明らかになった。耶律玦は遙輦氏鮮質可汗の八代目の子孫であり、墓葬所在地は遼朝に先行する契丹の君長であった遙輦氏の発祥地である。本書における契丹文史料を全面的に活用した従来国内外の研究がまったく触れえなかった契丹発祥地の包括的解明は、東ユーラシア史の全般的理解に大きな変容をもたらすであろう。

〈序編〉においては、遙輦氏鮮質可汗の八代目の子孫にあたる耶律玦の契丹文墓誌発見の経緯、墓誌の三度にわたる解読過程、及び中国新華社をはじめとする多くのメディアにより解読成果に関する報道を経たことをきっかけに、正式プロジェクトとして立ち上げるに至るまでの詳細を述べている。

〈調査編〉においては、内モンゴル自治区赤峰市敖漢旗の自然環境と人文地理、遙輦可汗の後裔墓地の調査過程、その周辺における墓誌の無い墓葬に対する考古学的検討、という全方位的かつ通時代的な研究方法を提示し、契丹文史料の解読成果を参照しつつ、遙輦氏鮮質可汗と耶瀾可汗の本帳地の実態及び大中央フリジ契丹国における位置を明らかにしている。

〈研究編〉においては、まず漢文史料である『遼史』世表と營衛志に散見する遙輦九世可汗に関する記述を分析し、中国系と契丹系の2種の原資料及びその編纂過程を探る。ついで、これを契丹文史料に見える遙輦氏鮮質可汗・耶瀾可汗・浪得堇可汗に関する記述に対比することで、遼朝成立以前の大中央フリジ契丹国の実態を解明している。

<附編>においては、『契丹國志』の原資料を解明する。とりわけ帝紀の最も主要な原資料が、『資治通鑑』『續資治通鑑長編』ではなく、『資治通鑑綱目』（嘉定十二年1219刊行）・『皇朝編年總目備要』（紹定二年1229）であることを確認している。いままで出土した62件にのぼった契丹大小墓誌並びに関連石刻資料の出土地及び墓誌に記述された墓主の帳族と系譜を墓誌の時代順によってまとめたうえ、中にひそめた漢文史料に見えない契丹人の「秘史」をさぐることで、遼史研究の新展開に多く裨益する。

目 次

図 版

序 編 『耶律玦墓誌』の発見から「契丹発祥地の考古学的調査研究」プロジェクトの実施へ

調査編

- 第一章 遙輦氏発祥地——内蒙古自治区敖漢旗——の沿革
- 第二章 遙輦可汗後裔の墓地——考古学的調査
- 第三章 遙輦可汗後裔墓地の周辺——考古学的検討
- 第四章 敖漢旗出土の積典関係の刻銘遺物
- 第五章 敖漢旗出土の漢文墓誌
- 第六章 敖漢旗における州城・仏塔・穀倉遺跡

研究編

- 第一章 漢文史料に見える遙輦氏九世可汗
- 第二章 契丹文史料に見える遙輦氏鮮質可汗・昭古可汗・耶瀾可汗・痕德堇可汗

附 編

- 1 契丹国志疏証
- 2 契丹文字に遺された「秘史」